

報告書概要

学生番号； XXXXXXXXXXXX

氏名； 木下俊延

所属専攻； 人間の探求

研究テーマ ；

パステルについての考察 ー ルドンのパステルの花を巡ってー

報告書概要 ；

美術史上、平面絵画はヨーロッパ地域に限っても、木炭、チョーク、インク、テンペラ、フレスコ、パステル、水彩、油絵など、多様な絵具により制作されてきた。現代では、油絵が安定した多彩な特質と、最大限までに開発された技法で、描画材料として一般的に使用されている。

一方、美術の起源を遡り、人類が初めて洞窟で制作した野牛などの群れは、岩などを砕いた粉末の絵具で描画されたと云われている。現代の粉末絵具パステルは、原始の粉末絵具の特質を引き継ぎ、自然に即した最もプリミティブな絵具であると思われる。

パステル絵具は、ダヴィンチの時代から現代まで、多数の優れた作品を残してきたにも拘わらず、現代では人口に膾炙すること少なく、適正に理解されていないと思われる。パステル絵具の歴史的な背景と、油絵などにはない特質および描画技法を解明して、理解を深める共に、一層の可能性を考察する。パステル絵画史上、絵具の特質を、最も理解し制作したと思われる、オディロン・ルドンの花瓶の花束の作品群を通して、パステル絵具の特質と共に、ルドン芸術も含めて考察していく。